

魅力あるまちの空間と使い方をデザインする 「ニワミチよっかいち」中央通り再編基本計画（第2期中間とりまとめ）



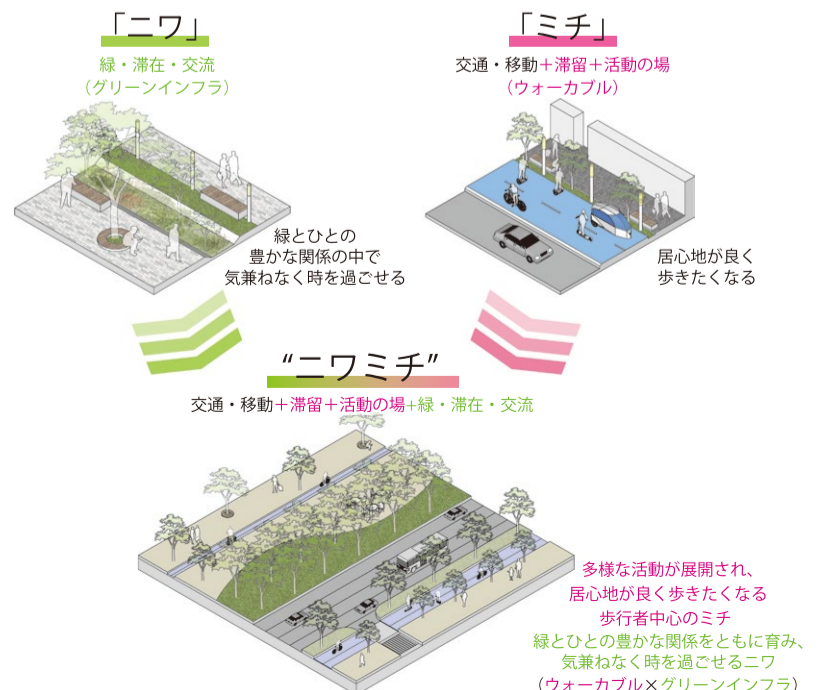
将来イメージ（近鉄四日市駅から四日市港を望む）

近い将来、リニア中央新幹線の東京・名古屋間が開通すると、四日市市は東京から移動時間1時間圏内の都市になります。市ではこのタイミングに合わせて、居心地が良く歩きたくなる魅力的なまちなかを実現するために、中央通りの再編に取り組んでいます。近鉄四日市駅とJR四日市駅の駅前広場を再整備するとともに、近鉄四日市駅の東西には歩行者デッキが設けられ、国が整備するバスやタクシーの乗降場を集約する「バスタ四日市」と直結する計画となっています。さらに、幅員70mの中央通りを1.6kmにわたり歩行者中心の空間として再編するなど、四日市のまちなかが大きく生まれ変わります。いよいよ今年度は、近鉄四日市駅西側の先行整備区間から工事に着手していきます。

基本計画のコンセプト

“ニワミチよっかいち” ～山を望み港へ結ぶ歩きたくなる中央通り～

有識者や交通関係者、市民、行政で意見交換しながら基本計画を検討し、「ニワミチよっかいち」をコンセプトとして掲げました。この言葉には、中央通りのクスノキ並木などを生かしながら、市民の皆さんが緑との豊かな関係を育む「庭」となり、居心地が良くさまざまな出会いに満ちた歩きたくなる「道」となりたいという思いを込めました。



— 中央通りの空間を構成する4つの視点 —

視点1 賑わい・もてなし空間の創出と回遊性の向上 「顔・賑わいづくり」

- 西浦通り～市民公園東区間は、南北の車線数を削減
- 近鉄四日市駅東～JR四日市駅区間は、南側に車線を集約し、歩行者空間を確保

視点2 まちづくりと連動した交通機能の配置 「交通機能強化」

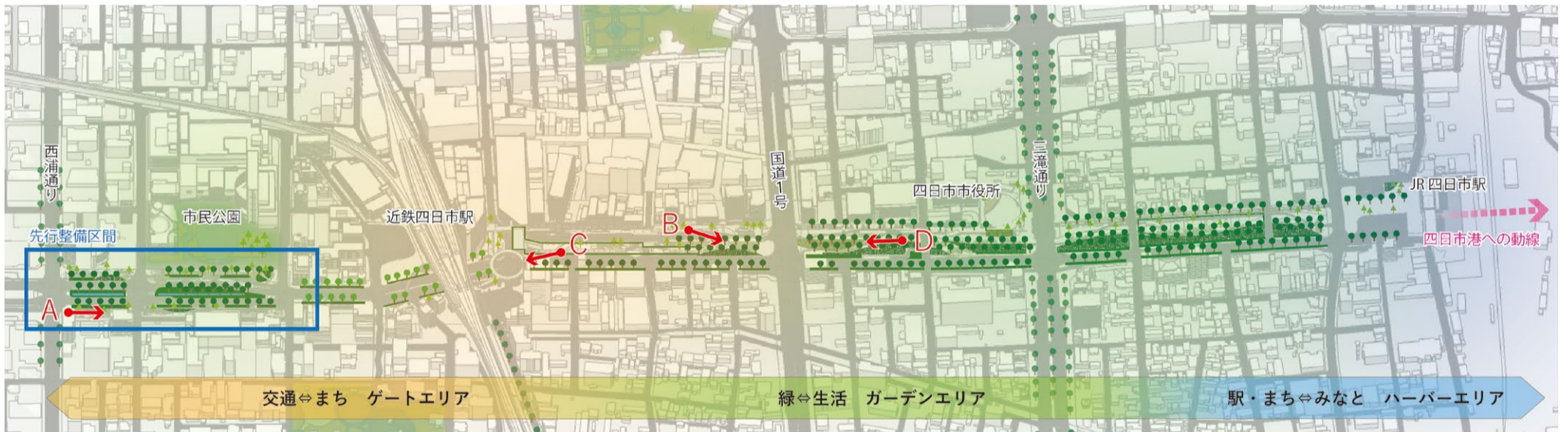
- 近鉄四日市駅東側にバスターミナルを集約
- 周辺の各種公園、バスターミナル、商店街など周辺施設と連携

視点3 中央通りを活用した空間の魅力向上 「空間の魅力向上」

- 歩きたくなる空間の素地となる中央通りの歩行者空間を最大化
- 緑豊かで高質なデザインにより空間の魅力を向上させる

視点4 社会情勢の変化への対応 「スマート化、レジリエンスの向上」

- 将来的な次世代モビリティの走行を見据えた南側自転車道の整備
- 災害時などの非常時を想定した避難空間の確保



令和4年度秋ごろに、にぎわいを創出する社会実験を予定

国道1号～JR四日市駅間に創出されるオープンスペースの利用方法を決めていくため、中央通りにオープンカフェや、スケートボードなどのアーバンスポーツができる施設を試験的に設置し、市民の皆さんと“ニワミチ”の使い方を考えていきます。

基本計画（第2期中間とりまとめ）について、詳しくは市ホームページをご覧ください

